議官佐野常民大給恒博愛社設立ノ
願之儀御下問ニ付意見上申
議官佐野常民大給恒戦地ニ創着救済之為
メ博愛社設立之儀ニ付願之趣致承知
候処右書并社則ヲ熟視スルニ着眼ノ儀ハ
仏国ニ於テハ最モ善美之称ヲ博シ今般
法ニ於テハ最モ善美之称ヲ博シ今般
御征討ノ事タル内国ニ係リ多数之死傷アリト
雖モ軍事病院医官及看病人等ヲ適当
ニ設ケ治療ヲ施スノ義又実ニ緊要ニ付テハ新ニ結
社之ヲ施ス治療ヲ施スノ義又実ニ緊要ニ付テハ新ニ結
社救済ノ負戦地ヘ派出スルヲ始メ内国ハ勿論実際大ニ
混雑ヲ生シ候ニ付テハ仮令外国ニ於テモ他邦ト
戦端ヲ開クニ当テハ結社救済ノ例ヲ仮ラスト雖
モ内国之交戦ヲ鎮撫ノ為ニ至テハ強テ妨挙ニ
及ヘキニアラス且ツ各社ノ設ケアルヤ既ニ
数年ヲ経過シ其間ニ教育ノ方法モ
第ニ自今度結社我ヘ派出之儀ハ
仮上ニ於テモ須ヤ已ムヲ得サルノ
実際ニ
非ス敵ノ傷
敵致候旨ハ
傷者ハ陣中病院ノ治術ヲ施シ
共敵後救済ニ至テハ人民ノ救助ニシテ
係ノ
敢テ軍術ノ
ナレハ此ノ
ハ
国医員携行之儀ハ
戦地ニ越之節モ
是ハ
ハ
ヲ
臨ニ
法善良ノ者ト
実際ニ於テ整備
候儀ニ
熟評ヲ
様
仕度也

陸軍卿山縣有朋代理
明治十年四月十九日
陸軍中将西郷従道

右大臣岩倉具視殿